積水ハウス＜1928＞、岐阜造園＜1438＞をTOBで子会社化

積水ハウスは、持ち分法適用関連会社で、造園の設計・施工を手がける岐阜造園にTOB（株式公開買い付け）を実施し、完全子会社化する。資本業務提携契約に基づき外構・造園工事の取引関係を強化してきたが、経営資源や人材の相互活用を進める上で、現状の体制では一体的な運営に制約があると判断。完全子会社化により、自社物件を通じた岐阜造園の営業エリア拡大、人材・ノウハウの相互活用による施工体制の強化、外構・造園・ランドスケープ分野での提案力の向上などの相乗効果を見込む。

一方の岐阜造園は積水ハウスの傘下に入ることで、案件数の増加や大型・高価格帯案件の強化、デザイン力・提案力の向上、人材の相互活用による施工力の強化などの相乗効果を見込む。

買付価格は1株につき2770円。TOB公表前日の終値1986円に39.48％のプレミアムを加えた。買付予定数は262万1665株で下限は保有割合の46.67％にあたる152万9300株。買付代金は約72億6200万円。買付期間は2026年11月16日～2027年1月13日の37営業日。決済の開始日は1月19日。公開買付代理人はSMBC日興証券。

岐阜造園はTOBに賛同し、株主に応募を推奨することを決めた。TOBが成立すれば、同社の東証スタンダード市場と名証メイン市場への上場は廃止となる。

岐阜造園は1927年に造園工事の請負を目的として創業し、66年に岐阜造園として株式会社化。16年に名証2部に上場した（市場再編により22年4月に名証メイン市場へ移行）。22年9月に東証スタンダード市場に上場。

積水ハウスは現在、岐阜造園の株式20.20％を保有する筆頭株主。